

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について

「平成26年度全国学力・学習状況調査」が4月に市内小・中学校17校で実施されました。安曇野市教育委員会では、今後の教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と学力向上検討委員会を組織し、結果の分析を行いましたので、その概要を報告します。

調査の概要

(1) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒数

調査学年	対象学校数	実施学校数（実施率）	実施した児童生徒数
小学校第6学年	10校	10校（100%）	941人
中学校第3学年	7校	7校（100%）	758人

(2) 調査の内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

ア 主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕

イ 主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

各教科区分の学力調査結果および学習状況調査結果から、安曇野市内小・中学校においては次のような傾向があることがわかりました。

調査結果の概要

調査結果は、公立の小・中学校を対象としています。（私立小・中学校は調査対象外です）

I 各教科区分の平均正答率の状況

【全国・長野県の平均正答率に対する比較の目安】

表 現	正 答 率 差
大きく上回っている	4.0以上
上回っている	2.0～3.9
少し上回っている	1.0～1.9
ほぼ同じ	±0.1～±0.9
少し下回っている	△1.0～△1.9
下回っている	△2.0～△3.9
大きく下回っている	△4.0以下

「大きく上回っている」とは・・・

教科に関する調査の結果について、本文中には、「大きく上回っている」、「少し下回っている」などと表現しています。これは、上記表に基づく基準で、それぞれの言い回しを用いています。たとえば、全国の正答率が80、安曇野市の正答率が84だった場合、別表に基づき、正答率差が4.0以上となり、「大きく上回っている」と表わします。

小学校

○ 小学校国語A 主として「知識」に関する問題について

* 全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

話すこと・聞くこと

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

書くこと

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

読むこと

全国（公立）より少し上まわっている。長野県（公立）とほぼ同じである。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

○ 小学校国語B 主として「活用」に関する問題について

* 全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

話すこと・聞くこと

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

書くこと

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

読むこと

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

○ 小学校算数A 主として「知識」に関する問題について

* 全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

数と計算

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

量と測定

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より上回っている。

図形

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

数量関係

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

- 小学校算数B 主として「活用」に関する問題について

* 全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

数と計算

全国（公立）ほぼ同じである。長野県（公立）より少し下回っている。

量と測定

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より上回っている。

図形

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

数量関係

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

中学校

- 中学校国語A 主として「知識」に関する問題について

* 全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

話すこと・聞くこと

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より少し上回っている。

書くこと

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

読むこと

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

- 中学校国語B 主として「活用」に関する問題について

* 全国（公立）より少し下回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

話すこと・聞くこと

（調査問題なし）

書くこと

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

読むこと

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

全国（公立）より下回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

○ 中学校数学A 主として「知識」に関する問題について

* 全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より上回っている。

数と式

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より上回っている。

図形

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

関数

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より上回っている。

資料の活用

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

○ 中学校数学B 主として「活用」に関する問題について

* 全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より上回っている。

数と式

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より大きく上回っている。

図形

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より上回っている。

関数

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より上回っている。

資料の活用

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

学力

● 全体的な傾向と課題

各教科別に平均正答率を合計すると、小学校・中学校ともに全国や長野県とほぼ同じか高い結果となりました。また、無解答率も低くなってきています。

基礎的な知識・理解や技能はおおむね身につけていると思われませんが、資料を基にしながら自分の考えをまとめて書いたり、解答の理由を記述して説明したりするなどの活用力を伸ばしていくことが大切であると思われま

【小学校の傾向と課題】

国語では、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりするなど、言語についての基礎的な知識・理解や技能はおおむね定着していると思われま

算数では、「数と計算」の領域で、基礎的な計算をする技能などはおおむね定着していると思われま

理して筋道を立てて考え、答えの求め方を記述したりすることなどに課題があると思われる。数学的な考え方を伸ばしていくことが一層大切であると思われる。

【中学校の傾向と課題】

国語では、文脈に即して漢字を正しく読んだり、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使ったりする、基礎的な知識・理解や技能などはおおむね理解できていると思われる。しかし、複数の資料を比較して読んで要旨を捉えることや、資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことなどに課題があると思われる。

数学では、基礎的な計算を含む「数と式」の領域はおおむね身につけていると思われる。しかし、「関数」の領域では、グラフの特徴を事象に即して解釈したり、問題を解決する方法を説明したりする、活用力に課題があると思われる。数学的な見方や考え方を伸ばしていくことが一層必要であると思われる。

生活環境や学習状況

●傾向と課題

小学校・中学校ともに幾つかの項目で、昨年度の調査結果でも見られた良い傾向が見られます。中でも、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている（起きている）」「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」「学校の規則を守っている」などは、全国や長野県と同じかまたは良い傾向がみられます。

【小学校の傾向と課題】

朝食を毎日食べることや、起床や就寝の時間が一定であるなど、基本的な生活習慣が定着していると思われる。また、地域の行事に参加する割合は、全国や長野県よりも大きく上まわっている結果となっています。

「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」については、全国や長野県より使用時間が短い傾向が見られました。携帯電話やスマートフォンを持っている児童の割合は、全国や長野県を大きく下まわっています。また、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間も全国や長野県より短い傾向があります。

学習面では、多くの児童が、家で学校の宿題をする習慣が身に付いていると思われる。しかし、家で、自分で計画を立てて勉強することは、改善傾向にあるものの、依然として継続した支援が必要であると思われる。

【中学校の傾向と課題】

朝食や起床・就寝等の基本的な生活習慣は、小学校と同様な傾向が見られました。「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と答えた生徒の割合

は、昨年度よりも高い結果になりました。

「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」については、使用時間が全国や長野県より短い傾向が見られました。携帯電話やスマートフォンを持っている生徒の割合は、全国や長野県を大きく下まわっています。また、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間も全国や長野県より短い傾向があります。

学習面では、家で学校の宿題をする生徒の割合は、全国や長野県より大きく上まわっています。しかし、家で学校の授業の予習（または復習）をしている生徒の割合は、全国や長野県と同様に低く、今後も支援をしていく必要があると思われま

調査の今後の活用

安曇野市教育委員会と各学校は、調査を通して把握した児童生徒の学力や学習状況を教育活動や教育施策に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

教育委員会

- ① 基本的な生活習慣や家庭学習の一層の定着を図るために、市校長会や市教育会、市PTA連合会と協働で「家庭学習の手引き」の内容を改善していきます。
- ② 授業や学校生活、家庭学習などで見られる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して調査・研究を行ったり小・中学校間の教職員の交流や研修などを推進したりしていきます。
- ③ 指導方法を改善し、学習効果を高めるために、市費加配教員（市費により、教員の標準定数に加えて配置された教員）の配置について検討していきます。
- ④ 「児童（生徒）質問紙」と「学校質問紙」から見えてくる児童生徒や学校の評価や課題を、日々の教育活動に生かせるように支援していきます。

学校は

- ① 基本的な生活習慣の形成と家庭学習の定着のために、市教育委員会や家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また様々な機会を通して協力を呼びかけたり、支援をしたりしていきます。
- ② 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行っていきます。
- ③ 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に生かすようにしていきます。そのために、以下の点にも配慮します。
 - ・「家庭学習の手引き」や各校の学習の手引き活用の観点からも分析する。
 - ・回答数が低い（0～2問程度）児童・生徒の分析をする。
 - ・有意に落ちている又は伸びている問題の分析をする。
 - ・当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、全校の授業改善の課題に

するために、CRT などの学力検査と関連付けて分析する。

- ④ 「児童（生徒）質問紙」や「学校質問紙」から見えてくる評価や課題を、日々の指導や教育活動に生かしていきます。

比較的に正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子

学力調査結果と学習状況調査結果のクロス集計を分析すると、小学校・中学校により多少の違いはありますが、表 1，2 に示す項目などにおいて、正答率が比較的高い傾向が見られます。

【表1】(小学校の例)

- ・ 朝食を毎日食べている。
- ・ ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
- ・ 家の方は授業参観や運動会などの学校の行事に来る。
- ・ 毎日、同じくらいの時間に寝ている（起きている）。
- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ・ 家で、学校の宿題をしている。
- ・ 家で、学校の復習をしている。
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。
- ・ 学校のきまりを守っている。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・ 最後まで解答を書こうと努力した。

【表2】(中学校の例)

- ・ 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。
- ・ 家の方は授業参観や運動会などの学校の行事に来る
- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ・ 家で、学校の宿題をしている。
- ・ 家で、学校の授業の予習をしている。
- ・ 家で、学校の授業の復習をしている。
- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・ 学校の規則を守っている。
- ・ 新聞を読んでいる。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・ 最後まで解答を書こうと努力した。